

2017年度 第6回 REC BIZ-NET研究会

# 「地域特産物を用いた農業の高度化と6次化」



コメの生産調整（減反）が来年度から廃止されますが、ダイズやムギ類との輪作体系の維持や補助金に依存したエサ米の生産だけでは、農地集約化や法人化のメリットを必ずしも活かさないのではないのでしょうか。新規に地域特産の作物生産に挑戦し、周辺企業とタイアップして多様な6次産業化に取り組み、若手就農者の増加と定着を目指せる作物生産基盤の構築が必要かと思えます。特に農耕地の95%が水田である滋賀県では、琵琶湖を含む農耕地環境の保全に立脚し、新たな価値を付加した農作物の生産技術の確立が必要ではないのでしょうか。

このような背景に鑑み、本研究会では、近年、地域の農業生産の重要な要素となり始めている伝統野菜の栽培の現状と課題について、大津市の近江カブを例に紹介します。先ず、レーク大津農業協同組合からその生産と利用の現況を紹介頂き、次いで、本学農学部からは、近江カブを

含む滋賀県内の多様なカブについて、遺伝資源保存の必要性やその特性評価についての研究および特産物化の可能性を紹介します。さらに水田高度利用の例として、地域特産作物を用いた環境調和型農業の可能性について、その研究の現況を本学農学部から紹介し、さらに環境保全の視点を加えた農業生産の例として琵琶湖畔のバラ生産者の新たな取り組みを紹介して頂きます。

本研究会を通して、「地域特産物を用いた農業の高度化と6次化」について、会場の皆さまからも活発なご意見を頂けるとありがたく存じます。いつの時代も人間生活の根幹をなす「食と農」のあり方と、今後の進むべき方向について、研究会にご参集頂く多様な業種の方々にも加わって頂いて論議を進め、新たな事業展開の可能性についても考えるきっかけとなれば幸いです。

【日 時】 2017年 12月 15日（金） 14：00～17：20（受付開始 13：30）

【場 所】 龍谷大学 瀬田キャンパス REC小ホール  
（大津市瀬田大江町横谷1-5 JR琵琶湖線「瀬田」駅よりバス約8分）

【申込方法】 裏面申込書をFAX.いただくか、E-mail (rec@ad.ryukoku.ac.jp) にて必要情報（裏面参照）送信、または、こちらのサイトから申込んで下さい →  
<https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201706/>



【参加費】 無料

## ◆◇◆ プログラム ◆◇◆

### ■ 開会の挨拶（14：00～14：10）

#### 1 「近江カブの生産振興」（14：10～14：30）

レーク大津農業協同組合 営農経済部 農業振興課 中塚 聡志 氏

#### 2 「近江のカブの多様性と系譜」（14：30～15：15）

龍谷大学農学部 資源生物科学科 教授 佐藤 茂

< 休 憩 15：15～15：25 >

#### 3 「滋賀県における水田の高度利用と環境保全に着目した地域特産農作物の創出」

（15：25～16：10）

龍谷大学農学部 資源生物科学科 教授 大門 弘幸

#### 4 「地域の価値と和ばら」（16：10～16：50）

株式会社Rose Universe Rose Farm KEIJI CEO 國枝 健一 氏

#### 5 名刺交換会（16：50～17：20）

主催：龍谷大学 龍谷エクステンションセンター（REC）

■2017.12.15開催(2017年度 第6回REC BIZ-NET研究会)

# 参加申込書

龍谷大学REC宛 FAX: 077-543-7771  
(MAIL: rec@ad.ryukoku.ac.jp TEL: 077-544-7299)



申し込みの際は、必要事項をご記入の上、FAX(送信表不要)でいただくか  
E-mail(rec@ad.ryukoku.ac.jp)で申込またはこちらのサイトから申込ください。→  
( <https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201706/> )

**★締め切り:12月11日(月)**

※参加者が6名以上の場合は、本申込書をコピーしてご使用ください。

会社名			
所在地	(〒 - )		
TEL		E-MAIL	
所属		役職	
氏名			
所属		役職	
氏名			
所属		役職	
氏名			
所属		役職	
氏名			

※記入いただきました個人情報は、本学プライバシーポリシーに基づき、厳重に管理いたします。  
(龍谷大学 REC事務部)